

The 12th International Conference on Aluminum Alloys (ICAA 12)

「第 12 回 アルミニウム合金国際会議」

電気通信大学 知能機械工学科
教授 村田 眞
(平成 20 年度国際会議等開催準備助成 AF-2008038)

キーワード:アルミニウム合金, 組織制御, 溶解鋳造

1. 開催日時

平成 22 年 9 月 5 日(月)～平成 22 年 9 月 9 日(木)

2. 開催場所

横浜市・パシフィコ横浜
〒220-0012 横浜市西区みなとみらい 1-1-1

3. 国際会議報告書

本会議はアルミニウム合金の基礎から応用に渡るほぼすべての分野をカバーする世界最大の国際会議で、第 1 回目が 1986 年にバージニア(米国)で開催されて以来、北京(中国)、トロンハイム(ノルウェー)、アトランタ(米国)、グルノーブル(フランス)、豊橋(日本)、シャーロットビル(米国)、ケンブリッジ(英国)、プリズベン(オーストラリア)、バンクーバー(カナダ)、アーヘン(ドイツ)の順で 2 年毎に実施されてきた。今回の ICAA12 は軽金属学会が主催し、組織委員長を本学会会長の里達雄東工大教授が、実行委員長を熊井真次東工大教授が務めた。29 か国から 498 名の参加者を迎え、その半数以上が国外からという国際会議らしい会議となった。

【参加登録ならびにウェルカムレセプション (9 月 5 日(日)午後)】

オーラル講演、ポスター発表、展示のすべてを同じフロアで実施できるよう会議センター3 階は全て貸切とした。

【プレナリーセッション (9 月 6 日(月)午前)】

開会式に引き続き、300 名の参加者で満員となった会場では 5 件のプレナリー講演が行われ、熱心な討議が展開された。

【パラレルセッション (9 月 6 日(月)午後～9 日(木)午前)】

午後からは 5 会場(6 日は 4 会場)に分かれてオーラル講演を実施した。幸いにも予想を大きく上回る 400 件以上のアブストラクトの応募をいただき、最終的には 271 件のオーラル発表(プレナリー講演: 5 件、基調講演: 18 件、招待講演: 34 件を含む)、141 件のポスター発表、計 412 論文を Program & Abstracts ならびに Proceedings に収録することができた。分野別では Casting, Precipitation, Forming に関する講演申込が多く、よって、これらは 3 日間に渡るセッションとなった。

【展示 (9 月 6 日(月)午後～8 日(木)午後)】

ICAA12 で特に力をいれたのが展示である。過去の ICAA シリーズではこのような企画はなく、初の試みであった。我が国のアルミニウム研究の歴史、国際的貢献、最先端の技術について紹介し、日本の存在を存分にアピールするため特設の展示会場を設けた。関係各位のご理解、ご

協力により、世界初のアルマイト、超々ジュラルミン等の歴史的製品を始め、世界的シェアを誇る各種の優れたアルミニウム製品、歴代の小山田記念賞受賞対象となった製品とそれらの解説パネルが綺麗にレイアウトされた。また併せてユニークなアルミニウム製チェロや最新の分析機器等も展示され、充実した展示内容となった。展示会場には、国内 190 名、海外 194 名、合計 384 名の多くの方々に訪れていただいた。

【ポスターセッション (9 月 6 日(月)、7 日(火))】

6 日(月)と 7 日(火)の両日、夕方 17:30～19:00 にかけて、海側に面した 2 つの会場でポスターセッションを行った。本会議では参加者全員に予め審査用紙を配布し、ポスター賞選考に参加いただくという企画をした。皆様からいただいた投票をベースに、会場担当実行委員を中心に結成した審査委員会でさらに慎重に審査を進め、10 件の poster award 受賞ポスターを決定した。

【バンケット (9 月 8 日(水)夜)】

午後 7 時より、パシフィコ横浜から徒歩数分の距離にあるパンパシフィック横浜ベイホテル東急クイーンズグラウンドボールルームにおいてバンケットを開催した。参加者数は 434 名であった。

【テクニカルツアー、エクスカージョン (9 月 9 日午後)】

会議終了後、IHI と日産自動車へのテクニカルツアー、ならびに鎌倉へのエクスカージョンを実施した。参加者は各々約 20 名。日産自動車追浜工場では自動車の組立ラインを見学、IHI は横浜事業所を訪問し、技術開発本部内の材料開発関連設備、耐震実験場や風洞実験室等を見学した。

【閉会式 (9 月 9 日午前)】

最終日にも多くの興味ある講演が多く組まれたため、閉会式も多くの参加者に恵まれた。すべての講演が終了し、吉田英雄副組織委員長から会議全般が滞りなく進行したことに対して参加者へ感謝の意が表され、ICAA12 の閉会が宣言された。

謝 辞

本国際会議を開催するにあたって、財団法人天田金属加工機械技術振興財団より国際交流助成金を賜りました。ここに、天田金属加工機械技術振興財団に心より感謝の意を表します。

また、この会議において、工場見学を快く受け入れていただき丁寧にご対応いただいた旭 IHI 株式会社、日産自動車株式会社に、厚く御礼申し上げます。